

署名ニュース

№4・2001.11.

第2回署名集約が出ました！！

11月7日（水）に署名の第2回の集約が出ました。

さくらんぼ組～464 / たんぽぽ組～275 / あひる組～410 はと組～152 / りす組～780 / ぞう組～450 となっております。

前回のとたして **3414 筆**となりました。

みなさまお忙しい中ご苦労様です。...でご苦労ついでにもう一声！！といきたいのですが、「全部うまっていないから...」と遠慮して出していない方はいませんか？11月19日に3回目の集約を予定しておりますのでその時には全部うまっていなくても出していただくと嬉しいです。（まだうめる！とがんばってくださいっても、もちろんOKです）

最終集約は11月末を予定しております。

学習会が終わりました。

実行委員の不手際もありまして講師が直前まで決まらず「どうなることやら」と少々ドキドキしましたが、11月2日に署名の学習会を行いました。職員、父母による寸劇もありましたが何と言っても園長先生の『ゆりかご保育園の歴史とこれからの保育園』と題したお話が好評でした。もちろん寸劇も笑いあり、笑いあり（涙はなかったね）で好評でしたよ。ではここで学習会の様子をちょっとご紹介します。

寸劇 サザエさん一家にもリストラの波が...。そこでサザエさんも働きに出たいというこ

とになったのですが、保育園に入れない、入っても保育料が高い、企業参入でできた保育園（託児所）はサービスを利用するたびお金がかかる、おまけに詰め込み。子どももたのしそうではない。多すぎる人数を保育している保育士さんたちはへとへとの様子。

サザエさんは思います。

「これって変だよ！！」

<感想だよ> 金曜日の署名学習会おもしろかった。金一母のあまりのはまり役にびっくり！！今年の署名係なんかパワフルで皆が引き込まれそうですね。
吉田母

「ゆりかご保育園の歴史とこれからの保育園」

園長先生のおはなしより...

という前置きで園長先生のお話がはじまりました。

昨年、そして今年と無認可保育園の署名の学習会に呼ばれていきました。昨年は「国の保育政策はどうなっていくのか、これから、どうなるのか」という題で話しました。ところが今年は「どうなっていくのか」ではなく「ここまできている！！」というせっぱ詰まった状態であるということをお伝えしたいと思います。

ゆりかごの歴史...矢島宅で始まったゆりかご保育園、数名だった子どもがどんどん増え、アパートの一室へ引っ越し、次には現クリスチャンセンターのところにあった空き家に移る。このとき18歳だった鎌田先生がゆりかごに保育士としてやってきます。（親の「働くのには子どもを保育してくれる場所がほしい」という願いからスタートしたゆりかご保育園。ゆりかごに入りたいという親子が増えるとともにその建物も大きくなっていったようです。）ゆりかごの無認可時代は無認可が必要とされていた時代でもあった。（認可の産休明け保育ゼロの時代）

2歳になるとすぐに認可保育園へ移ってもらわなくてはならなかったが、移っていた認可保育園の園長先生から「ゆりかごから来た子どもは困る。食事の時『おかわり』と言う。水道の水で遊びたがる。外へ行きたがって脱走する。」との苦情をもらった。（おかわりって言える。すごいじゃない！！夏の暑い

日水遊びしたい当たり前じゃない！！外で思い切り遊びたい！！当然じゃ～...あー、あつくなる）それらの当たり前のことを当たり前にさせてあげたいという親の思いが、ゆりかご保育園認可にむけての運動になっていた。**子どもたちが生き生きと生活できる場がほしい、そういう親の思いが土台となってできた保育園であるということ**を語り継いでいってほしい。

<裏面へつづく・・・>

<感想だよ> 私の母や先生たちが保育園をゼロからスタートさせ、今度は私たちがより良い形にしていく時なんだな～と思いました。難しい時代だけだね。 星母（ゆりかご卒園児です）

<感想だよ> 待機児童ゼロだとか、駅型保育所増設だとか「あらなんか、いいんじゃない？」働く親にとってはありがたい話しです。でもそれが子どもにとってどうなのか???そんなことを考えてもいなかったのです。園長先生のお話を聞くまでは...。今までも、もっと働きやすい環境を！よりよい保育を！と理解して署名活動に取り組んできたつもりでしたが、前者にばかり意識を持っていた自分に反省しました。兄弟3人でゆりかご保育園に通う夢は叶いそうにありませんが、逆に他の保育園をみて、そして園長先生のお話を聞いて改めてゆりかごの良さを感じたのでした。

P S 学習会の食事についていたさつま揚げみたいなやつおいしくて残ったのを5つ買ってかえりました。作り方教えてほしいなと思いました。 大野母

民間企業の保育参入の実態...(ゆりかご保育園は 120 名定員の建物ですが、120 名では落ち着いた保育が保障できないということで、110 名でやってきました。年間 300 万の赤字) 待機児童ゼロ作戦ということで、定員の 25% 増の人数を入れても良いということになっている。

10 月からは、制限なしの規制緩和が始まった。民間保育園にお金を貯めさせておいて、国からの補助をカットするということをするための準備が始められている。認可保育園に入れられるだけ入れる、保育士の資格がなくても 6 人以上の子どもがいれば補助を出すと
いう待機児童ゼロ作戦は子どもにとって本当に良いのだろうか。必要なお金をかけずに人手を減らし、質を落としている。公立保育はサービスもしない、などというバッシングのうらには公立保育園を統廃合していった民間に委託しようとする意図が感じられる。ゆりかごのことだけを考えるのではなく、全市的、全国的な目で見えてほしい。

どんな保育園を望むか...子どもにとって、親にとって、保育者にとって、運営者にとってどんな保育園を望むかということをおおいに語り合ってもらいたい。一人一人の違う力の発達を保障するという視点から「こんな保育園がほしいから署名に協力してね」といった活動にしていってほしい。

<感想だよ> 私の友人の家が、矢島園長宅とともに初代ゆりかご保育園であり、友人から当時の思いで話を聞かされていたこともあり、また今ほど母親の就労が一般的ではなかった頃の先輩たちの苦労を知り、園長先生のお話は感慨深いものがありました。園長は規制緩和など新しい保育環境は、子どもへの発達保障ではなく、親たちへのサービスだとおっしゃっていましたが、実際は少子・高齢社会化に際しての経済政策でしょう。エンゼルプランも、緊急保育対策 5 年事業にも「こどもの最善の利益」には登場してこないのですから。しかし、劣悪な環境に子どもたちがおかれているのであれば、その経済対策にもなり得ないと思います。私は、社会福祉法人に勤務しているので状況の厳しさは身にしみて感じています。ノーマライゼーションや自立支援といった美風美名のもとに社会福祉基礎構造改革がすすめられつつありますが、最低基準も変わらず、制度・施策も改革されず、障害者のニーズを充足すべく努力すれば、それはそのまま福祉労働者の労働強化へと結びつく状況です。「最低のコストで最高のサービス」です。

職場の方に署名をお願いしたところ、(国が) 児童福祉施設の最低基準を見なおすことになれば、全ての福祉分やでの最低基準を見なおさなくてはならないので、難しいだろうと言われました。しかし、だからこそ保育制度の充実が日本の福祉切り捨て政策を阻止するための足がかりになって欲しいと、声をあげていかなければならないと強く思いました。曽根母

<感想だよ> ゆりかご保育園の今までの経緯や、昔の保育の状況などのお話が聞けて、とてもためになりました。署名はやらねばとは思っていたのですが、正直な話し、何のためにやるのか、やったらどうなるのかよくわからなくて、人に署名してと頼むにも頼みづらく思っていたのですが、学習会に出て署名の意義を理解し、人にも少し説明できるようになり、自信をもって「署名してください」と頼めるようになりました。三井父

以上、学習会の内容と感想です。

園長先生のお話は署名学習会というだけではなく、たくさんの方に聞いて欲しいな～と思うお話でした。

川柳大賞決まる

11月10日の熱燗パーティーの席で川柳大賞が決まりました。たくさんのご応募ありがとうございました。

入賞作品は玄関に掲示されていますので、**見てね！！**

今回のニュースは長くなりましたが、最後までお付き合いしてくださった方ありがとうございます。

またのニュースをお楽しみに（してないか...）